

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地									
マロニエ医療福祉専門学校		平成7年3月31日		五十嵐 トヨ子		〒328-0027 栃木県栃木市今泉町2丁目6番22号 (電話) 0282-29-3001									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地									
学校法人 産業教育事業団		昭和59年12月24日		川嶋 武美		〒328-0012 栃木県栃木市平柳町2丁目1番38号 (電話) 0282-27-8383									
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士										
医療	医療専門課程	看護学科		平成17年文部科学省 告示第176号	-										
学科の目的	<p>教育目的 看護専門職として理念を尊び、尊敬・感謝・貢献の理念を基本とした人間教育を目指す。看護に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の分野で活躍できる人材を育成する。</p> <p>教育目標 1.対象を全人的に捉え、健康問題を科学的根拠に基づき判断する能力を持ち看護実践ができる。 2.生命尊厳の倫理、人格の尊厳に基づいた行動がとれる人間を養う。 3.常に変動する社会情勢や医療の動向に対応できる柔軟な適応力を養う。 4.保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、リーダーシップ及びマネジメント能力を養う。 5.豊かな感性を身につけ広い視野を持って、国際的・学術的に自己研さんできる能力を身につける。</p>														
認定年月日	平成28年2月19日														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技								
	3年 昼間	3000時間	1805時間	160時間	1035時間	-	-								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数										
240人	207人	0人	16人	62人	78人										
学期制度	<p>■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌年3月31日</p>			成績評価	<p>■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 優:80点以上 優:70～79点 可:60～69点 不可:59点以下</p>										
長期休み	<p>■学年始:4月第1週 ■夏季:7月第4週～8月第4週 ■冬季:12月第4週～翌年1月第1週 ■学年末:3月第3週～3月末</p>			卒業・進級条件	本校所定の課程を修了した者										
学修支援等	<p>■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・担任による学生面談(年1回) ・成績不良者や長期欠席者への個別指導対応 ・学生サポートセンターによる入学前や在学中の学修支援</p>			課外活動	<p>■課外活動の種類 学生自治組織、学校祭実行委員会、 スポーツ交流実行委員会、ボランティア活動</p>										
就職等の状況※2	<p>■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 病院、診療所</p> <p>■就職指導内容 ・履歴書の確認、面接の練習 ・就職説明会</p> <p>■卒業生数: 74 人 ■就職希望者数: 67 人 ■就職者数: 66 人 ■就職率: 98.5 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合: 89.1 %</p> <p>■その他 ・進学者数: 1人(マロニエ医療福祉専門学校 助産学科)</p>			主な学修成果(資格・検定等)※3	<p>■課外活動の種類 学生自治組織、学校祭実行委員会、 スポーツ交流実行委員会、ボランティア活動</p> <p>■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>②</td> <td>74人</td> <td>68人</td> </tr> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄</p>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	看護師	②	74人	68人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数										
看護師	②	74人	68人												
(平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)															
中途退学の現状	<p>■中途退学者 11名 平成29年4月1日時点において、在学者224名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者213名(平成30年3月31日卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由、健康上の都合、一身上の都合</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 ・学年を2クラスに分け、担任制としている。 ・定期的に学生との面談を実施。 ・必要時、保護者との面談を実施。</p>			■中退率 5%											
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・留年時、授業料半額減免 ・経済的に困難がある学生に対して授業料の一部を減免(要申請) ・入学希望者の二親等以内に在校生や卒業者がいる場合入学金を免除(要申請、看護学科通信課程を除く)</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無														
当該学科のホームページURL	http://www.maronie.jp/03/03d/index.html														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者から除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

これからの看護師には、在宅や医療機関におけるチーム医療の中で、患者や家族、医師、コメディカルスタッフとのコミュニケーションを円滑にする役割が求められる。また、看護師自ら患者の最善の利益のため、適切に判断する実践能力が必要となる。

臨地実習は、看護の実践を通して知識・技術・態度を統合して学ぶ必要不可欠な学習方法である。そのため、実習施設との情報交換を密に行い、相互関係を築いていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本委員会は、運営管理規定により、学校の円滑な運営教育内容の充実、向上を図るため設けられた各種会議の一つであり、外部委員・学科長をもって構成され、カリキュラム編成等に関する事項を協議する。

委員会にて提出された意見は改めて学科内で協議した後、学校運営委員会に上程、採用される。

看護専門学校として、病院等と密接に連携し、臨床の看護の知識・技術・態度を身に付けられる実践的な職業教育に取り組む。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
馬込 公子	公益社団法人 栃木県看護協会 常任理事	2018年4月1日 ～2020年3月31日(2年)	①
落合 紀代美	とちぎメディカルセンターしもつが 看護師長	2018年4月1日 ～2020年3月31日(2年)	③
松本 洋子	上都賀総合病院 副看護部長	2018年4月1日 ～2020年3月31日(2年)	③
鷹嘴 貴久美	マロニエ医療福祉専門学校 副校長	2018年4月1日 ～2020年3月31日(2年)	
阿部 未映子	マロニエ医療福祉専門学校 看護学科長	2018年4月1日 ～2020年3月31日(2年)	
瀬畑 仁美	マロニエ医療福祉専門学校	2018年4月1日 ～2020年3月31日(2年)	
太田 浩史	マロニエ医療福祉専門学校	2018年4月1日 ～2020年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、12月)

(開催日時(実績))

【平成29年度実績】

第1回 平成29年7月25日 10:00～11:00

第2回 平成29年12月14日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

関連病院における新人研修参加の依頼。

看護の統合Ⅲの学内演習授業案開示。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・実習施設は実習承諾書の契約を交わした施設から年度ごとに調整する。
- ・実習指導者は、各施設において実習指導者研修を終了した看護師とする。
- ・年に1回実習施設の管理者に対して実習に関する情報交換を行う。
- ・基礎実習、各論実習、老年看護学実習Ⅰ、統合実習の前には各施設の指導者に対して実習内容確認の会議を開催する。
- ・各病棟に専任教員あるいは実習指導教員を配置し、病棟指導者と調整しながら実習を進める。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・ 病棟師長へ学生の臨地実習が効果的に進められるようスタッフへの動機づけ・病棟備品など学習環境が整えられるよう依頼している。
- ・ 実習指導者へ受け持ち患者の選定及び受け持ち患者の個別性に合わせた看護過程の展開と実践が出来るよう依頼している。
- ・ 病棟実習期間中は毎日、直接教員が実習指導者と調整し学生個々の状況に合わせて指導内容方法を検討している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
基礎看護学実習A	基礎看護学において学習した知識、技術、態度を基に、看護実践の場での体験を通して、看護とは何かを考え、看護に必要な基礎的能力を養う。 [目標] 1. 対象の療養環境の実際を知る。 2. 対象への日常生活の援助の必要性を理解し基本的な看護について学ぶ。	とちぎメディカルセンターしもつが 上都賀総合病院 野木病院 リハビリテーション花の舎病院
基礎看護学実習B	基礎看護学において学習した知識、技術、態度を基に、看護実践の場での体験を通して、看護とは何かを考え、看護に必要な基礎的能力を養う。 [目標] 1. 日常生活援助を通して問題解決思考・対人関係プロセスについて学ぶ。 2. 医療チームにおける看護の役割について理解する。 3. 看護への関心を高め、看護者としての基本的態度を養う。	とちぎメディカルセンターしもつが 上都賀総合病院 石橋総合病院 野木病院 新上三川病院
成人看護学実習	成人期にある対象の特徴を理解し、健康段階に応じた看護を実践できる基礎的知識、技術、態度を修得する。 [目標] 1. 成人期にある対象とその家族の特徴を理解できる。 2. 看護実践の基礎となる看護技術を習得できる。 3. 対象の健康段階および個別性を捉えた看護過程を展開できる。 4. 保健医療チームの一員として看護師の役割と責任に対する理解を深めることができる。	とちぎメディカルセンターしもつが 上都賀総合病院 新上三川病院
老年看護学実習	老年期にある対象と家族および支える人々を理解し、加齢変化と健康障害の程度に応じた看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。 [目標] 1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化を理解する。 2. 社会構造の変化・高齢化に伴う保健医療福祉の場における課題を理解する。 3. 老年期にある対象への理解を深め、老年看護の機能と役割を理解する。 4. 加齢変化・健康障害の程度に応じた老年期にある対象に必要な援助ができる。 5. 老年期にある対象の人生観、価値観を理解し、尊重した関わりができる。 6. 老年期にある対象の看護をとおして自己の老年観を養うことができる。	シルバー大学校 介護老人保健施設 とちぎメディカルセンターしもつが 上都賀総合病院 野木病院

<p>在宅看護論実習</p>	<p>地域の中で療養する人々とその家族を理解し、在宅看護の場・機能・役割の実際について学ぶ。 [目標] 1. 地域の特性及び健康問題を知り、それに対する保健医療福祉サービスの現状を理解する。 2. あらゆる健康状態にある対象とその家族を理解し、適切な在宅看護援助の方法を学習する。 3. 対象とその家族の価値観を尊重し、信頼関係を築くためのコミュニケーション技術を学ぶ。 4. 在宅療養を支えるシステムを理解し、その関係職種との役割と連携、社会資源の活用について知る。 5. 実習を通して看護観・人生観・家族観を深める。</p>	<p>市町村 訪問看護ステーション 包括支援センター</p>
----------------	---	--

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
本校研修規定に則り、業務遂行に必要な知識及び技能の習得、能力の向上を図るため、個々の教員の課題に対応しながら積極的な教育力を有する教員を養成する。
教員は学生に看護の専門性を伝えるため、日々教育、実践力の向上に努める。また、学科内研修を年1回実施し、学生指導の在り方を学習する。

(2) 研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等
研修名「看護政策の動向、看護教育行政の動向」(連携企業等: 栃木県看護系教員協議会)
期間: 平成30年4月24日(火) 対象: 学科教員 他参加者: 栃木県内看護系専任教員
内容: 栃木県内の保険・福祉・医療の全体的な動向と施策についての話があった。地域包括ケアシステムの構築の必要性、看護教育に求められること等に関する情報を得ることが出来た。

②指導力の修得・向上のための研修等
研修名「学生が主体的に考え、学ぶ楽しさを実感し成長するプロセスをサポートする教育」
(連携企業等: 栃木県看護系教員協議会)
期間: 平成29年8月5日(土) 対象: 学科教員 他参加者: 栃木県内看護系専任教員
内容: 看護学生に本当に学んでほしいこと、学ぶべきことを明らかにし、臨床状況に内包される看護の課程から実践的知識を学ぶための支援の在り方についての講演。パフォーマンス評価、ポートフォリオ、リフレクション。ルーブリックをどのように活用するのか具体事例も提示された。

(3) 研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等
栃木県看護系教員協議会 領域別研究会継続参加 予定
②指導力の修得・向上のための研修等
学科内研修 1回/年
学科内教員 研究授業 リフレクション
栃木県看護系教員協議会 研修参加 3回/年
国家試験対策 外部研修参加

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
年度ごとの重点課題を定め学校運営方針を作成し、PDCAサイクルに沿って実際の運営を行い、年度末に自己点検自己評価を実施。その結果を学校関係者評価委員会にて企業等委員を交えて報告し、評価する。委員会の評価内容や意見を来年度以降の教育活動やその他の運営にどう反映するのか学内で検討し、時代や福祉医療現場の変化に合わせた教育の質の確保につなげる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念、目的、育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) ・学校における職業教育の特色は何か ・各学科に教育、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育記念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか ・関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施、評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務、兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識、技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路、就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行なわれているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校、高等専修学校との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか

(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているか ・予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座、教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価に関して、委員会を開催し評価結果の報告を行うとともに、各委員からの意見を集約し、それらを学校ホームページで公開することによって、広く地域社会へ本校の役割を伝達している。

・卒業後キャリア形成の把握、フォローについて

自己評価結果報告を受けて、昨年度委員会より具体的な取り組みが必要とのご意見があった。それにより、29年度から卒業生の動向を把握するためのアンケート作成等整備が本格的に進められてきた。

平成30年度後期より、卒後1～2年の卒業生及びその就職先にアンケートやインタビューを実施する予定である。

・入学後の学生支援について

入学後に行っている学生支援対応をもっと知ってもらえることができると良いとのご意見をいただく。

平成30年度から学内に学生サポートセンターを設置することになったため、以降は就職、生活、学習等の支援の窓口がより明確化し、以前よりわかりやすく情報発信と学生対応ができる体制になる。

なお、新年度のオリエンテーションの際にサポートセンターの役割は学生に周知する予定である。

実施予定対応:基礎学力アップ支援、学習相談、就職支援、生活支援(奨学金等) など

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
松島 陵介	清田建設工業株式会社 福祉事業部	2018年4月1日 ～2020年3月31日(2年)	卒業生 企業等委員
北條 豊	合同会社あゆみの森 代表社員	2018年4月1日 ～2020年3月31日(2年)	企業等委員
川村 祐也	医療法人常盤会 緑の屋根診療所	2017年4月1日 ～2019年3月31日(2年)	卒業生 企業等委員
須藤 智宏	医療法人心教会 小山富士見台病院	2017年4月1日 ～2019年3月31日(2年)	卒業生 企業等委員
馬込 公子	公益社団法人 栃木県看護協会 常任理事	2018年4月1日 ～2020年3月31日(2年)	企業等委員
中里 佳純	大澤歯科医院	2017年4月1日 ～2019年3月31日(2年)	卒業生 企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.maronie.jp/20/index.html>

公表時期:平成30年7月11日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

平成19年に施行された学校教育法施行規則第189条及び第190条において「自己評価の実施と評価結果の公表が義務化」、「学校関係者評価の実施と評価結果の公表が努力義務化」された。その後、平成24年に文部科学省から「専修学校における学校評価ガイドライン」が公表されたことに伴い、本校でも学校評価を活かした教育の質向上が図れるよう自己点検・自己評価の実施、並びに学校ホームページを通じて、その評価結果を公表している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育・人材養成の目標、特徴 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史 ・その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者に関する受け入れ方針及び入学者、収容定員、在学学生数 ・カリキュラム(科目配当表(科目編成・授業時間数)、時間割、使用する教材など授業方法及び内容、年間の授業計画) ・進級・卒業の要件等(正式評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・資格取得、検定試験合格等の実績 ・卒業生数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数(職名別) ・教職員の組織・教職員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育、実習・実技等の取り組み状況 ・職業支援等の取り組み支援
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の取り組み状況 ・課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援の取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金の取り扱い(金額、納付時期等)
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・貸借対照表
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	-
(11)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.maronie.jp/20/index.html>

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			論理学	<p>[科目目標] 物事を論理的に思考し、客観的なものの見方、考え方、表現力を習得する。</p> <p>[学習目標] 1. 自らの考えを論理的に表現できる力を習得する。 2. 実践的な文章力をつける。 3. レポート小論文の構成力を育てる。</p>	1 前	30	1	○			○			○	
○			情報科学	<p>[科目目標] 情報身関する基本的な事柄が理解できる。患者に関する情報の種類・重要性・取扱方法について理解できる。パソコンの基本操作が出来、簡単なプレゼンテーションができる。看護に関する文献検索ができる。</p> <p>[学習目標] 1. 統計的な基本知識を身につける。研究に必要な統計手法を活用できる。統計資料を見て推察解釈できる。Word、Excel、PowerPointの使用方法、基本操作等を学習し、プレゼンテーションやドキュメントの作成に役立てることができる。 2. インターネット、電子メールの利用法を習得する。 3. 統計的な考え方が理解できる。</p>	1 前	30	1	○			○			○	
○			生物学	<p>[科目目標] 解剖生理学の基礎となる生物体の構成、機能が理解できる。</p> <p>[学習目標] 1. 生物は生命の現象を営む細胞からなる構造体であることを理解できる。 2. 細胞に構造と機能を理解する。 3. 生殖のしくみとその発生について理解する。 4. 遺伝と染色体、DNAの構造と機能を理解する。 5. 体液の浸透圧、体温、恒常性について理解する。</p>	1 前	15	1	○			○			○	
○			教育学	<p>[科目目標] 教育と看護は、人間を対象として本質的に持っている資質を引き出し育てるという共通の目的があることを学ぶ。学習の本質を理解し、自己教育力を育成できる。</p> <p>[学習目標] 1. 学びのための援助者としての知識を理解し、看護における健康教育の意義と方法を活用することができる。</p>	1 後	30	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			倫理学	<p>[科目目標] 生命尊厳・人格尊重の精神に基づいた人間としての考え方・生き方を学び、看護の専門職を目指すものとして倫理の基づいた行動がとれる能力を育成する。</p> <p>[学習目標] 1. 医療の進歩に伴い変化する医療内容を倫理的な観点から捉え、医療における倫理的問題・倫理的な意思決定について、十分な思慮に基づいた判断を下すことができる。 2. 様々な倫理思想について学び、生命倫理・医療倫理の具体的な諸問題と争点を理解して、医療における倫理とはどのようなものかについての概観を得る。</p>	1前	15	1	○			○			○		
○			心理学	<p>[科目目標] 人間の心理、行動を理解し、よりよい人間関係形成の基本を学ぶ。</p> <p>[学習目標] 1. 心理学の基礎を学び人間理解に役立てる。 2. 自らの生き方についての洞察を深める。</p>	1前	30	1	○			○				○	
○			社会学	<p>[科目目標] 人類の文化や価値観の多様性を理解し、社会的存在としての人間を幅広い視点から考察する。世界の様々な文化や生活様式、風俗習慣、宗教的儀式などを知り、自分の属する社会についての理解を深める。</p> <p>[学習目標] 1. 社会的なものの見方、考え方が理解できる。</p>	1前	15	1	○			○				○	
○			英語 I	<p>[科目目標] 医療看護の日常業務に必要な基礎的な英語能力を培う。異文化に興味を持ち、海外の看護事情や動向を学ぶ。</p> <p>[学習目標] 1. 医療看護の日常業務に必要な基礎的な英語が理解できる。</p>	1後	30	1	○			○				○	
○			英語 II	<p>[科目目標] 看護に必要な情報収集ができ、日常的英会話力を培う。外国人と積極的に人間関係を形成し、視野を広げていくことができる。</p> <p>[学習目標] 1. 看護に必要な情報収集を理解し、看護の現場での日常会話能力を身につけ、外国人と積極的にコミュニケーションが取れる。</p>	2前	45	2	○			○				○	

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間関係論Ⅰ	<p>[科目目標] 健全な自愛を育み他者への健全な関心が持てる。己、他者受容ができ、適切な自己主張を実践する。自己のタスクに向け、評価調整を図る。</p> <p>[学習目標] 1. 自己実現に向けて、自分の存在や他者の存在を考えることができる。 2. 人間関係、患者との関係について心理学・臨床心理学・心身医学的観点から考えることができる。</p>	1前	30	1	○			○			○	
○			人間関係論Ⅱ	<p>[科目目標] 対人関係における理論と実践方法を学び、将来の看護職にどう活用するかを学びあう。</p> <p>[学習目標] 1. 自己と他者という「人間」の心理を理解する。 2. 「感情」をコミュニケーションにおいてどう活用するかを考察する。</p>	2前	30	1	○			○			○	
○			人間関係論Ⅲ	<p>[科目目標] 看護専門職として自己への癒し、自律訓練の必要性を理解する。</p> <p>[学習目標] 1. 保健、健康行動の変容のためのコミュニケーション技術が習得できる。 2. 行動変容と健康指導という視点から「相手」を知り、価値観を捉え、健康行動へと問題の解決を図るための基本的なコミュニケーションの知識が習得できる。</p>	3前	15	1	○			○			○	
○			人体の構造と機能Ⅰ	<p>[科目目標] 人体の正常な構造と機能を理解する。</p> <p>[学習目標] 1. 解剖生理の基礎が理解できる。 (1) 人体発生の理解 (2) 体温調節・骨格・筋の理解</p>	1通	30	1	○			○			○	
○			人体の構造と機能Ⅱ	<p>[科目目標] 人体の正常な構造と機能を理解する。</p> <p>[学習目標] 1. 解剖生理の基礎が理解できる。 (1) 呼吸器系の理解 (2) 循環器系の理解 (3) 血液の理解</p>	1通	30	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人体の構造と機能Ⅲ	<p>[科目目標] 人体の正常な構造と機能を理解する。</p> <p>[学習目標] 1. 解剖生理の基礎が理解できる。 (1) 消化器系の理解 (2) 内分泌系の理解 (3) アレルギー系の理解 (4) 皮膚の構造と機能の理解</p>	1通	30	1	○			○			○	
○			人体の構造と機能Ⅳ	<p>[科目目標] 人体の正常な構造と機能を理解する。</p> <p>[学習目標] 1. 解剖生理の基礎が理解できる。 (1) 神経系の理解 (2) 感覚器系の理解 (3) 泌尿器系の理解 (4) 生殖器系の理解</p>	1通	30	1	○			○			○	
○			生化学	<p>[科目目標] 人体における物質、エネルギー代謝について理解する。</p> <p>[学習目標] 1. 生体を構成する生体分子の特性とその合成・分解(代謝)について理解できる。 2. それらと疾患との関係・看護とのかかわりについて理解できる。</p>	1前	30	1	○			○			○	
○			栄養学	<p>[科目目標] 栄養についての基礎的知識を習得する。食事療法における基礎を学ぶ。</p> <p>[学習目標] 1. 栄養素とその働きの基本知識を学ぶ 2. 食生活が健康の保持・増進・生活習慣病の発症に大きく関与していることが理解できる。</p>	1前	30	2	○			○			○	
○			薬理学	<p>[科目目標] 薬物に関する基礎的知識を習得し、臨床で使用される主な薬物の作用について学ぶ。</p> <p>[学習目標] 1. 薬物の基礎知識が理解できる。</p>	1後	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			疾病治療論Ⅰ	<p>[科目目標] 疾病の原因や発生原理、形態と機能および代謝変化の原理を理解する。運動器系疾患を持つ患者の身体的アセスメントが理解できる。基礎的知識を習得し、治療の方法が理解できる。</p> <p>[学習目標] 1. 疾病の概念が理解できる 2. 運動器疾患を持つ患者の身体的アセスメント・治療法が理解できる。</p>	1 前	30	1	○			○		○		
○			疾病治療論Ⅱ	<p>[科目目標] 呼吸器系、循環器系、血液造血器系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントが理解できる。基礎的知識を習得し、治療の方法が理解できる。</p> <p>[学習目標] 1. 呼吸器疾患をもつ患者の身体的アセスメント・治療法が理解できる。 2. 循環器疾患をもつ患者の身体的アセスメント・治療法が理解できる。 3. 血液造血器疾患をもつ患者の身体的アセスメント・治療法が理解できる。</p>	1 後	30	1	○			○		○		
○			疾病治療論Ⅲ	<p>[科目目標] 消化器系、内分泌代謝、アレルギー・自己免疫疾患を持つ患者の身体的アセスメントが理解できる。基礎的知識を習得し、治療の方法が理解できる。</p> <p>[学習目標] 1. 消化器疾患をもつ患者の身体的アセスメント・治療法が理解できる。 2. 内分泌代謝疾患をもつ患者の身体的アセスメント・治療法が理解できる。 3. アレルギー・自己免疫疾患をもつ患者の身体的アセスメント・治療法が理解できる。</p>	1 後	30	1	○			○		○		
○			疾病治療論Ⅳ	<p>[科目目標] 腎泌尿器系、女性生殖器系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントが理解できる。基礎的知識を習得し、治療の方法を理解できる。</p> <p>[学習目標] 1. 腎泌尿器疾患をもつ患者の身体的アセスメント・治療法が理解できる。 2. 女性生殖器疾患をもつ患者の身体的アセスメント・治療法が理解できる。</p>	2 前	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			疾病治療論Ⅴ	<p>[科目目標] 脳神経系、感覚器系に疾患を持つ患者の身体的アセスメントが理解できる。基礎的知識を習得し治療の方法を理解する。</p> <p>[学習目標] 1. 脳神経疾患をもつ患者の身体的アセスメント・治療法が理解できる。 2. 感覚器疾患をもつ患者の身体的アセスメント・治療法が理解できる。</p>	2前	30	1	○			○			○	
○			疾病治療論Ⅵ	<p>[科目目標] 疾患を結びつけて、主な治療・検査に使われる麻酔について理解ができる。医療従事者に要求されるリハビリテーションマインドについて理解できる。</p> <p>[学習目標] 1. 麻酔の基礎が理解できる。 2. 医療従事者に要求されるリハビリテーションマインドについて理解し、代表的な疾患・障害に対するリハビリテーションアプローチを学ぶ。</p>	2前	30	1	○			○			○	
○			微生物学	<p>[科目目標] 微生物の特徴を知り、生体に及ぼす影響について理解できる。病原微生物の感染経路と感染予防について理解する病原体と疾患の関連が理解できる。</p> <p>[学習目標] 1. 微生物の特徴、生体への影響を学び、感染症の予防について理解できる。</p>	1前	30	1	○			○			○	
○			公衆衛生学	<p>[科目目標] 我が国の公衆衛生関係の統計状況を理解し、その中から今日の話題となっているものを把握してこれからの公衆衛生の在り方について学ぶ。</p> <p>[学習目標] 1. 公衆衛生の実際を知る。 2. 衛生統計に関する情報が理解できる。 3. 今日の医学の現状と課題が理解できる。</p>	2後	30	2	○			○			○	
○			社会福祉学	<p>[科目目標] 社会福祉の理念と歴史を学び、現状を知り社会資源の活用の仕方が理解できる。福祉と医療の連携の必要性が理解できる。</p> <p>[学習目標] 1. 法制やサービス体制、ライフサイクルに対応した福祉、福祉専門職と関連職種との連携が理解できる。 2. 医療と社会福祉の必要性を理解し、全体像を学ぶ。</p>	2前	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			関係法規	<p>[科目目標] 法とは何かを理解できる。看護師としての身分、業務内容を理解し行動することができる。</p> <p>[学習目標] 1. 法とは何か、社会生活の中における法の仕組みを理解し、看護師としての業務の内容と法の位置づけを学ぶ。</p>	2後	30	2	○			○			○	
○			基礎看護学概論	<p>1. 看護の原点と看護の本質について学び、看護の概念について理解できる。</p> <p>2. 人間の欲求及び、健康状態と健康問題を把握し、看護の対象としての人間を理解できる。</p> <p>3. 人間にとっての環境の意味、人間と環境、健康との相互作用について理解できる。</p> <p>4. 健康概念、生活と健康のかかわりについて理解できる。</p> <p>5. 看護の実践に携わる職業の成り立ちと機能と役割について学ぶ。</p> <p>6. 看護者としての職業倫理を理解し、自覚と責任を持つ姿勢を養う。</p>	1前	45	2	○			○		○		
○			基礎看護学方法論Ⅰ	<p>1. 看護における安全を守るための基礎的技術が習得できる。</p> <p>2. 安全を守る上での看護師の役割と援助の必要性を理解する。</p> <p>3. 対象の治療環境に関する欲求充足のための基礎的知識・技術・態度が習得できる。</p> <p>4. 対象の活動・休息に関する欲求充足のための基礎的知識・技術・態度が習得できる。</p>	1前	30	1	○		△	○		○		
○			基礎看護学方法論Ⅱ	<p>1. 対象の健康状態を把握する上での必要なフィジカルアセスメント技術の重要性を理解し習得できる。</p> <p>2. 対象のコミュニケーションに必要な基本的態度と方法が理解できる。</p> <p>3. 看護活動における記録の重要性・管理及び報告の重要性・方法について理解できる。</p> <p>4. 看護における健康教育の重要性を理解し、指導技術の基本が理解できる。</p>	1前	30	1	○		△	○		○		
○			基礎看護学方法論Ⅲ	<p>1. 対象の清潔・衣生活に関する欲求充足のための基礎的知識・技術・態度を習得できる。</p> <p>2. 衣生活・清潔の意義と生活習慣に則した生活・衣生活の方法を理解し、対象に適した援助をする。</p>	1前	30	1	○		△	○		○		
○			基礎看護学方法論Ⅳ	<p>1. 対象の食事に関する欲求・充足のための基礎的知識・技術・態度が習得できる。</p> <p>2. 対象の排泄に関する欲求充足のための基礎的知識・技術・態度が習得できる。</p>	1前	30	1	○		△	○		○	○	

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎看護学方法論Ⅴ	1. 診察・検査時の看護師の役割を理解し、援助技術が習得できる。 2. 治療・処置に伴う看護役割を理解し、援助技術が習得できる。	1後	30	1	○		△	○		○		
○			基礎看護学方法論Ⅵ	1. 看護過程の構成要素について学び、看護活動との関連について理解できる。 2. 看護過程の各段階の概要が理解できる。 3. 看護過程の展開ができる。	1後	30	1	○			○		○		
○			基礎看護学看護研究	1. 研究の必要性和研究方法について理解できる。 2. 看護研究に関する基礎知識、方法論について理解できる。	1後	30	1	○			○			○	
○			基礎看護学臨床看護総論	1. 臨床看護総論を学ぶ意義、学習内容について理解できる。 2. 健康障害のある対象および家族の理解と看護の視点について理解できる。 3. 各疾病の経過に基づく対象の特性と看護の基本について理解できる。 4. 看護活動の場に応じた看護の特性について理解できる。 5. 主要症状を持つ対象の看護上の特性と看護の基本について理解できる。 6. 治療・処置により対象にもたらす心身への影響を理解し、効果的・安全・安楽に行われるための看護の基本について理解できる。	1通	60	2	○			○		○	○	
○			基礎看護学実習A-1	[目的] 基礎看護学において学習した知識、技術、態度をもとに、看護実践の場での体験を通して、看護とは何かを考え、看護に必要な基礎的能力を養う。 [目標] 基礎看護学実習A-1 1. 対象の療養環境を知る。	1前										○
			基礎看護学実習A-2	[目的] 基礎看護学において学習した知識、技術、態度をもとに、看護実践の場での体験を通して、看護とは何かを考え、看護に必要な基礎的能力を養う。 [目標] 基礎看護学実習A-2 1. 対象への日常生活の援助の必要性を理解し基礎的な看護について学ぶ。	1後	45	1				○	○		○	○

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			基礎看護学実習B	<p>[目的] 基礎看護学において学習した知識、技術、態度をもとに、看護実践の場での体験を通して、看護とは何かを考え、看護に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>[目標] 基礎看護学実習B 1. 日常生活の援助を通して問題解決思考・対人関係プロセスについて学ぶ。 2. 看護の関心を高め、看護者としての基本的態度を養う。</p>	2後	90	2								○
○			成人看護学概論	<ol style="list-style-type: none"> 成人看護学の位置づけ、健康な成人の特徴が理解できる。 成人の成長発達の特徴や身体機能の特徴、生活の特性を理解し、個人に課せられた役割や期待が統合された社会的存在であることがわかる。 成人期に見られる健康問題の発生機序を理解し、健康を保持・増進するための健全な生活の大切さがわかる。 健康が障害された成人を対象とする看護が健康レベルに異なることがわかる。 成人を取り巻く身体的・精神的・社会的背景を知り、将来の健康保険や医療の方向を統計的な面より理解できる。 成人看護の実践に用いられる基礎理論がわかる。 	1後	30	1	○			○		○	○	
○			成人看護学方法論Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> 周手術期にある人の看護の特徴を理解できる。 術前に必要な援助が理解できる。 術中に必要な援助が理解できる。 術後に必要な援助が理解できる。 術後合併症の根拠と予防のための援助が理解できる。 創傷治療の援助が理解できる。 退院に向けた援助が理解できる。 胃がんの手術療法を受ける患者の援助が理解できる。 生命の危機的状況にある対象の特徴を捉え、看護援助が理解できる。 急性心筋梗塞を発症し、生命の危機的状況に陥った対象、集中治療下における看護に必要な知識を深め、看護援助が理解できる。 	2後	30	1	○			○		○	○	

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			成人看護学 方法論Ⅱ	1. 回復期にある人、特に生活障害を中心に機能・形態障害・能力障害を評価し、リハビリテーション看護が理解できる。 2. 各機能障害からみた日常生活動作（ADL）の自立に持っていく訓練や日常生活援助の方法が理解できる。 3. 運動による身体機能の影響と看護が理解できる。 4. 早期社会復帰、生活の質を高める援助が理解できる。 5. 対象・家族の心理的援助が理解できる。 6. 社会資源の活用・連携を理解できる。	2前	30	1	○			○		○	○	
○			成人看護学 方法論Ⅲ	1. 慢性疾患をもった成人期にある対象の特徴と看護が理解できる。 2. 呼吸機能障害をもつ対象の看護が理解できる。 3. 肝機能障害をもつ対象の看護が理解できる。 4. 内分泌代謝障害をもつ対象の看護が理解できる。 5. 腎機能障害をもつ対象の看護が理解できる。 6. 難病・膠原病をもつ対象への看護が理解できる。 7. 感覚器に障害をもつ対象の特徴と看護上の問題・援助方法が理解できる。	2前	30	1	○			○		○	○	
○			成人看護学 方法論Ⅳ	1. がんの特徴性を理解できる。 2. がん患者とQOLが理解できる。 3. がん患者における倫理的問題が理解できる。 4. がん治療に伴う看護が理解できる。 5. がん患者の身体的苦痛と援助が理解できる。 6. 心理的・社会的苦痛と援助が理解できる。 7. がん患者の家族への援助が理解できる。 8. ターミナルケア・緩和ケア・ホスピスケアが理解できる。 9. ターミナル期にある成人の療養の場が理解できる。 10. ターミナル期にある成人の家族が理解できる。 11. 臨終・死亡時の看護と死亡時の処置が理解できる。	2後	30	1	○			○		○	○	
○			成人看護学 方法論Ⅴ	1. 成人期にある患者の看護過程の展開ができる。	2後	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			成人看護学実習Ⅰ	1. 成人期にある対象を、身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2. 患者の病態生理を理解し、麻酔および手術侵襲の影響がわかる。 3. 術前・術中・術後に必要な援助が理解できる。 4. 看護計画を評価し、実習の振り返りができる。 5. 既習学習と受け持ち患者の病態を関連付けて考え、必要な援助が実施できる。 6. 術後合併症を予測した観察および予防のための援助が実施できる。 7. 手術による身体機能の変化を理解し、退院後の生活に向けての援助ができる。	3前	90	2			○	○	○	○	○	
○			成人看護学実習Ⅱ	1. 発病初期・増悪期にある患者の看護が理解できる。 2. 障害された機能を改善するための援助ができる。 3. 予測される合併症・二次感染を予防するための縁者ができる。 4. 患者・家族の不安に対し援助ができる。 5. 症状の悪化による緊張状況への対処の方法を学ぶ。	3前	90	2			○	○	○	○	○	
○			成人看護学実習Ⅲ	1. 回復期における対象および家族の特徴が述べられる。 2. 回復期にある対象の疾病、障害に伴う身体的な苦痛や機能障害、機能回復を阻害する因子について理解する。 3. 長期安静に伴う障害と回復期における日常生活動作(ADL)の自立拡大への援助ができる。	3前	90	2			○	○	○	○	○	
○			老年看護学概論	1. 老年期にある人の身体的・精神的・社会的変化を知り、ライフサイクルにおける老年期とその健康課題を理解できる。 2. 社会構造の変化・高齢化に伴う保健医療福祉の場における課題が理解できる。 3. 老年看護の基本的考え方と課題が理解できる。 4. 健康状態に応じた看護の機能と役割が理解できる。	1後	30	1	○			○		○		
○			老年看護学方法論Ⅰ	1. 老年期特有の健康問題が理解できる。 2. 高齢者に特有な症候、疾患の看護が理解できる。 3. 治療を受ける高齢者への看護が理解できる。 4. 終末期にある高齢者への看護が理解できる。	2前	30	1	○		△	○		○		
○			老年看護学方法論Ⅱ	1. 日常生活動作のアセスメントの方法を学ぶ。 2. 残存機能を生かした日常生活援助技術を学ぶ。 3. 合併症・二次的障害予防への援助技術を学ぶ。	2前	30	1	○			○		○		
○			老年看護学方法論Ⅲ	1. 加齢変化・健康障害をもつ人の看護過程の展開が理解できる。	2前	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			老年看護学 実習Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化を理解する。 2. 加齢が対象の健康・生活に与える影響を理解できる。 3. 老年期にある対象の特性を踏まえた日常生活援助を実施できる。 4. 老年期にある対象およびその家族に関心を持ち、尊重した態度がとれる。 5. 保健医療福祉の役割および連携を知る。 	2後	90	2			○	○	○	○	○	
○			老年看護学 実習Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化を理解する。 2. 社会構造に変化・高齢化に伴う保健医療福祉の場における課題を理解する。 3. 老年期にある対象への理解を深め、老年看護の機能と役割を理解する。 4. 加齢変化・健康障害の程度に応じた老年期にある対象に必要な援助ができる。 5. 老年期にある対象に人生観・価値観を理解し、尊重した関わりができる。 6. 老年期にある対象の看護を通して自己の老年観を養うことができる。 	3前	90	2			○	○	○	○	○	
○			小児看護学 概論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの特徴を理解できる。 2. 子どもの成長発達の原理が理解できる。 3. 子ども観の歴史的変遷と子どもの権利が理解できる。 4. 小児保健の統計をふまえ、子どもにかかわる法律と保健対策が理解できる。 5. 子どもを取り巻く環境の意義と子どもの成長発達を促す環境が理解できる。 6. 小児看護の目標と役割を理解し、小児看護における倫理的問題が考えられる。 	1後	30	1	○			○		○		
○			小児看護学 方法論Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの栄養の特徴と援助について理解できる。 2. 子どもの日常生活の特徴と健康な生活を送るために必要な援助が理解できる。 	2前	15	1	○			○		○		
○			小児看護学 方法論Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康段階に応じた看護の方法が理解できる。 2. 小児病棟に必要な基本的看護技術を習得できる。 3. 小児期にある患者の看護過程が展開できる。 	2前	30	1	○			○		○	○	
○			小児看護学 方法論Ⅲ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの主な疾患や障害の特徴が理解できる。 2. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響について理解できる。 	2後	30	1	○			○		○	○	

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			小児看護学 実習	1. 健康な子供の成長発達を理解し、適切な日常生活の援助ができる。 2. 子供および家族の看護上の問題を明確にし、子どもの発達段階を考慮した看護が実践できる。 3. 小児各期の対象に応じた基礎看護技術を学ぶ入院・疾病が子供と家族へ及ぼす影響を理解し、保健医療チームの役割について学ぶ。 4. 子供の安全管理における看護師の責任を自覚し、事故防止に努めることができる。 5. 子供を愛し、尊重し、一人の人格を持った人間として関わる姿勢を養う。	3 前	90	2			○	○	○	○	○	
○			母性看護学 概論	1. 母性・父性および母性看護学の概要が理解できる。 2. 人間の性と生殖機能、性行動、セクシュアリティの概念が理解できる。 3. 母性の特徴および発達過程が理解できる。 4. 母性保健の動向と保健対象が理解できる。 5. 母性看護に関する生命倫理について考えられる。	1 後	30	1	○			○			○	
○			母性看護学 方法論Ⅰ	1. 女性のライフステージにおける特徴を理解し、看護の必要性が理解できる。 2. 思春期にある人の看護が理解できる。 3. 母性保健の動向と保健対象が理解できる。 4. 向老期の女性の看護が理解できる。 5. 女性のライフステージにおける特徴から、必要な看護指導を振り返ることができる。	1 後	15	1	○			○		○		
○			母性看護学 方法論Ⅱ	1. 妊娠の正常な経過および異常妊娠が理解できる。 2. 分娩の正常経過および異常分娩が理解できる。 3. 産褥期における正常な経過および異常産褥が理解できる。 4. 新生児の生理と異常をフィジカルアセスメントの知識と技術を用いて理解できる。 5. 新生児の沐浴と諸計測が実施できる。	2 前	30	1	○			○			○	
○			母性看護学 方法論Ⅲ	1. 妊娠の身体的、心理的、社会的特徴を踏まえ、妊娠期の看護が理解できる。 2. 産婦の身体的、心理的、社会的特徴を踏まえ、分娩期の看護が理解できる。 3. 妊産婦の看護技術をフィジカルアセスメントの知識と技術を用いて理解し、実施できる。 4. 妊婦体操、分娩時の補助動作と呼吸法の意義を理解し、実施できる。 5. 褥婦の乳房の観察と、乳汁分泌促進法の実施ができる。 6. 新生児の看護が理解できる。 7. 褥婦の看護過程の展開に必要な知識、方法が理解できる。	2 後	30	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			母性看護学 実習	1. 周産期にある対象を理解する。 2. 母性看護における個々の対象に適した看護援助が考えられる。 3. 母性看護の援助技術を安全安楽に実施できる。 4. 母性を取りまく保健・医療・福祉チームにおける看護の役割・責任について理解できる。 5. 生命の尊厳や母性について自己の考えを深めることができる。 6. 対象を理解し、その対象のあった健康教育の計画を立案・実施することができる。	3 後	90	2	○			○	○	○	○	
○			精神看護学 概論	1. 心のケア、日本の精神障害者の現状、精神看護学の基本的な考え方が理解できる。 2. 精神の健康と障害について理解できる。 3. 精神看護の歴史の変遷が理解できる。 4. 精神看護学の法制度の概要、人権擁護について理解できる。	1 後	30	1	○			○	○			
○			精神看護学 方法論Ⅰ	1. 精神看護の基本概念と精神の機能、機器と介入について理解できる。 2. ライフサイクルについて理解できる。 3. パーソナリティーの発達と適応について理解できる。 4. 精神保健福祉における法制度について理解できる。 5. 精神障害者のリハビリテーション療法、精神障害者の地域生活について理解できる。	2 前	30	1	○			○		○		
○			精神看護学 方法論Ⅱ	1. 生物学的側面から見た精神の障害、脳の精神機能を理解できる。 2. 精神疾患の心理学的側面と精神症状について理解できる。 3. 精神が障害された人の主な臨床検査について理解できる。 4. 主な精神疾患の診断・分類・病体・治療について理解できる。	2 前	15	1	○			○		○		
○			精神看護学 方法論Ⅲ	1. 精神看護における看護理論について理解できる。 2. 精神症状のアセスメントと看護援助技法について理解できる。 3. 患者の権利擁護とリスクマネジメントについて理解できる。 4. 地域における精神看護について理解できる。 5. リエゾン精神看護について理解できる。	2 後	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			精神看護学 実習	1. 精神疾患の患者とのかかわりを通して、対象を理解できる。 2. 精神疾患患者とのかかわりを振り返り、治療的人間関係について考察できる。 3. 精神障害の程度に応じたニーズや課題に気づき、対象に必要な援助ができる。 4. 精神科医療における看護の役割と、多職種との連携・協働を理解する。 5. 精神科デイケア、作業所実習に臨み、社会復帰の重要性とその方法を理解する。	3 後	90	2			○	○	○	○	○	
○			在宅看護論 概論	1. 在宅看護の変遷を学びその必要性が理解できる。 2. 地域看護と在宅看護の概要を理解できる。 3. 対象としての家族理解とその援助方法を学ぶ。 4. 在宅療養者を取り巻く社会環境が理解できる。 5. 在宅療養者の権利擁護について学ぶ。 6. 諸外国の在宅看護の現状から日本の在宅看護の今後を展望する。	2 前	30	1	○			○		○	○	
○			在宅看護論 方法論Ⅰ	1. 在宅ケアチームにおける在宅看護の役割と機能。 2. 訪問看護の特性と役割が理解できる。 3. 訪問看護のマナーと面接技術を身につける。 4. 在宅看護の対象が理解できる。 5. 在宅療養者を取り巻く社会環境・資源の実際が理解できる。 6. 在宅における終末期の看護が理解できる。	2 前	30	1	○			○		○		
○			在宅看護論 方法論Ⅱ	1. 訪問看護の基本となる技術が理解できる。 2. 在宅における日常生活援助と生活指導が理解できる。 3. 在宅療養者の状態別看護が理解できる。 4. 特殊な技術を伴う在宅看護が理解できる。	2 後	30	1	○			○			○	○
○			在宅看護論 方法論Ⅲ	1. 訪問看護の看護過程が理解できる。	2 後	15	1	○			○		○		
○			在宅看護論 実習	1. 地域の中で療養する人々とその家族を理解し在宅看護の場・機能・役割の実際について学ぶ。 2. 地域の特性及び健康問題を知り、それに対する保健医療福祉サービスの現状を理解する。 3. あらゆる健康状態にある対象とその家族を理解し、適切な在宅看護援助の方法を学習する。 4. 対象とその家族の価値観を尊重し、信頼関係を築くためのコミュニケーション技術を学ぶ。 5. 在宅療養を支えるシステムを理解し、その関係職種の役割と連携、社会資源の活用について学ぶ。 6. 実習を通して看護観・人生観・家族観を深める。	3 後	90	2	○				○	○	○	○

授業科目等の概要

(医療専門課程看護学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			看護の統合と実践 臨床看護実践論	1. 今までに習得した基本的な知識・技術を活用して看護実践するための問題解決能力の強化ができる。	2前	15	1	○			○			○	
○			看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ	1. 医療事故・過誤防止について、看護師に必要な知識・技術が理解できる。 2. 看護師が持つべき倫理的責任において理解できる。 3. 看護をマネジメントできるための看護の組織・管理の基本が理解できる。	2後	30	1	○			○		○	○	
○			看護の統合と実践 看護の統合Ⅱ	1. 災害の定義と災害看護、災害時の看護活動が理解できる。 2. 医療安全の知識をふまえ、感染症看護について理解できる。 3. 国際的な広い視野に基づき、世界で起こっている健康問題について考えるとともに、看護の役割について自らのことばで語ることができる。 4. 広い視野で人権や人間の安全保障を考えながら看護できる人、またそういう視点に敏感になることができる。	2前	30	1	○		○	○		○	○	
○			看護の統合と実践 看護の統合Ⅲ	1. 企業の健康管理について理解できる。 2. 臨床実践に近い形で実際の看護業務遂行を疑似体験し、複数の課題での総合的な判断・対応を学ぶ。	3後	30	1	○			○		○		
○			看護の統合 実習	1. 看護マネジメントの実際を知る。 2. リスクマネジメントの実際に触れ、医療安全に対する意識を高める。 3. リーダーシップ・メンバーシップを発揮し、チームで活動できる能力を養う。 4. 看護実践の場において優先順位を考えた行動がとれる。 5. 専門職業人として、最新知識・技術を学び続ける基礎的能力を培う。	3後	90	2			○		○	○	○	○
合計					79科目						3000単位時間(97単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：本校所定の単位を全て修得すること。 履修方法：すべての科目に2/3以上出席し、定期試験を受け、可以上の成績を取ること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。